

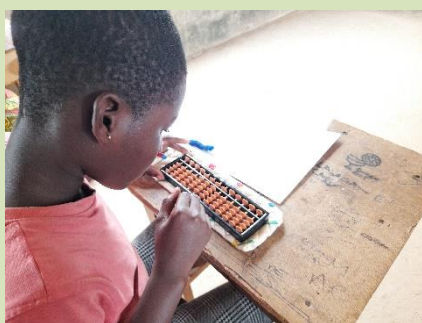
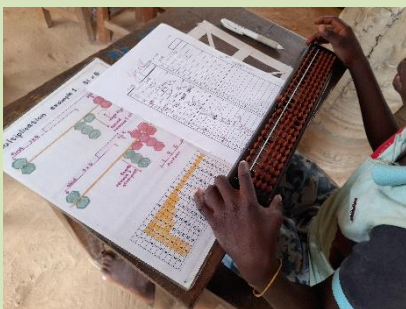
ガーナでそろばんプロジェクト 123 号(2025 年 5 月 31 日)

★★ そろばん教室の位置づけ ★★

五月に入り新学期になりました。学校が始まり土曜日のそろばん教室となりました。開室目標は月二回です。そんな土曜日開室一回目となった日のそろばん教室はバケーション中の賑わいとは違い子ども六人と一年のクラス担任のマアシィのみでした。マアシィは前年の五年のクラス担任時からそろばんの計算方法を素晴らしいと言い、覗きに来た先生にそろばんの珠の見方を説明し、繰り上がりを嬉しそうに説明していたのでした。そして「今三年生にいる自分の娘にそろばんを教えたい」と言ってきたのです。その当時三年生だった娘は四年生となり、その娘とまだ小さい娘を連れて彼女は再開したそろばん教室に通うようになりました。「アクラでもそろばんは買えるの？娘にそろばんを与えたい」こんな事も彼女は私に言ってきました。そろばんは前号で記述した「マイそろばん」制度を今回のそろばん教室でも導入する考えです。この学校にいる限り、マアシィがマアシィの娘の頑張り次第でマイそろばんを手に入れることが出来ます。実現できるよう応援するほかありません。彼女はとても熱心で通常授業の休み時間に「どうしても⑤が難しいの。教えて欲しい。」と言ってきました。彼女の言った難しい問題を確認すると「47+27=30」でした。この問題は確かに五珠が数字を入れる度に動きます。Maa'shiiを充分に理解していないとなりません。二回目となった五月の最終土曜日は、マアシィと彼女の娘は登室しなかったので、指導することは出来ませんでした。次回来たらじっくり指導したいと思います。スクールバケーションから学校がある時の週末土曜日になり、「そろばん大好き」「そろばん教室行くわ」あれほど言っていた六年生の生徒が今のところ来ることはありません。六年生で来ている生徒は四人ほです。子どもには子どもの家庭

内労働が有り、これは日本で言うお風呂掃除の手伝いをした洗濯物を畳むの手伝ったというのではなく、自分の事は自分です。家庭の仕事は子どもの仕事であり、制服を手洗する、水を汲みに行く、頭の上に物を乗せて売りに行くというのが家庭内労働になり、これらをやらなければならぬ子どもも昔から多く見きました。それを思うと、本当はそろばん教室に行きたいのだけれども行く事が出来ないという子どももいるのかもしれませんが。先述のマアシィも学びたいけれど、やらなければならぬ家庭内労働があったのかもしれない。これまで、問題に直面する度に出した答えは「そろばん教室は自らの足で自ら学びたいと思った生徒がやって来る学びの場」として位置づけしてきました。この考えはぶれずに持ち続け、行きたくても行けないと思っている生徒がいるとしたら、子ども自身にも、そろばん教室に通うための行動をとってもらわなければなりません。過去には、小さな弟妹を連れてやって来た生徒もいました。教室が終わったたら物を売りに行くと言い、大きな丸いトリーに手作りトッフィを乗せてやって来た生徒もいました。教室が再開したからこそ、過去の経験が思い起こされるのかもしれませんが。明日から六月です。六月も土曜日開室二回を目標に、自ら学びたいと思ってやって来た生徒一人一人と向き合い指導していきます。

TOSHIO



子どもの学びのサポートに心より感謝いたします。

協賛

トモエそろばん様